

入 札 公 告

次のとおり一般競争入札に付します。

令和6年10月31日

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産技術研究所 管理部門長 二階堂 英城

1. 調 達 内 容

- (1) 調達件名及び数量 姫戸沖ブイ復旧に係る係留索現状調査等業務 一式
- (2) 調達仕様 入札説明書による。
- (3) 履行期限 令和6年12月20日
- (4) 履行場所 入札説明書による。
- (5) 入札方法 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額(当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額)をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

2. 競 争 参 加 資 格

- (1) 国立研究開発法人水産研究・教育機構契約事務取扱規程(平成13年4月1日付け13水研第65号)第12条第1項及び第13条の規定に該当しない者であること。
- (2) 令和4・5・6年度国立研究開発法人水産研究・教育機構競争参加資格又は全省庁統一資格の「役務の提供等契約」の業種「調査・研究」又は「その他」で「A」、「B」、「C」又は「D」いずれかの等級に格付けされている者であること。
- (3) 国立研究開発法人水産研究・教育機構理事長から物品の製造契約、物品の販売契約及び役務等契約指名停止措置要領に基づく指名停止を受けている期間中でないこと。
ただし、全省庁統一資格に格付けされている者である場合は、国の機関の同様の指名停止措置要領に基づく指名停止を受けている期間中でないこと。
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第32条第1項各号に掲げる者でないこと。

3. 入 札 説 明 書 等 の 交 付 方 法

競争参加希望者は、以下により入札説明書等(入札説明書、入札心得書、契約書案、入札書様式、委任状様式等)の交付を受けること。

直接交付

長崎県長崎市多以良町1551-8
国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産技術研究所管理部門管理課
電話 095-860-1662
FAX 095-850-7767

宅配便着払いによる交付

任意書式に「【姫戸沖ブイ復旧に係る係留索現状調査等業務】入札説明書宅配便にて希望」と記入し、社名、担当者名、住所、電話番号を記載のうえ、上記あてファックス送信すること。

メールによる交付

任意書式に「【姫戸沖ブイ復旧に係る係留索現状調査等業務】入札説明書メールにて希望」と記入し、社名、担当者名、メールアドレス、電話番号を記載のうえ、上記あてファックス送信すること。

4. 入札説明会の日時及び場所等

仕様書等に関し質疑がある場合には、令和6年11月8日までに上記3.あてにメール（アドレスは入札説明書に記載）又はファックスにて質疑を行うこと。当日までの質疑を取りまとめ、回答は入札説明書受領者全員に對して行うとともに当機構のホームページにて公表することにより入札説明会に代える。

なお、当該日以降に質疑が発生した場合も随時受け付け、同様に対応する。

ただし、質疑内容に個人に関する情報であって特定の個人を識別し得る記述がある場合及び法人等の財産権等を侵害するおそれのある記述がある場合には、当該箇所を伏せ又は当該質疑を公表せず、質疑者のみに回答することがある。

5. 入札の日時及び場所等

(1) 郵便による入札書の受領期限及び提出場所

令和6年11月15日 11時00分
3. に同じ。

(2) 開札の日時及び場所

令和6年11月15日 14時00分
長崎県長崎市多以良町1551-8
国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産技術研究所 中会議室

7. その他

(1) 契約手続きにおいて使用する言語及び通貨

日本語及び日本国通貨。

(2) 入札保証金及び契約保証金

免除。

(3) 入札の無効

本公告に示した競争参加資格のない者の提出した入札書及び入札に関する条件に違反した入札書は無効とする。

(4) 契約書作成の要否

要。

(5) 落札者の決定方法

予定価格の制限の範囲内で最低価格をもって有効な入札を行った入札者を落札者とする。

(6) 競争参加者は、入札の際に国立研究開発法人水産研究・教育機構の資格審査結果通知書写し又は全省庁統一資格の資格審査結果通知書写しを提出すること。

(7) 詳細は入札説明書による。

8. 契約に係る情報の公表

(1) 公表の対象となる契約先

次の及びいずれにも該当する契約先

当機構において役員を経験した者（役員経験者）が再就職していること又は課長相当職以上の職を経験した者（課長相当職以上経験者）が役員、顧問等^{注1}として再就職していること
当機構との間の取引高が、総売上高又は事業収入の3分の1以上を占めていること^{注2}

なお、「当機構」とは、改称前の独立行政法人水産総合研究センター及び国立研究開発法人水産総合研究センター、統合前の独立行政法人水産大学校を含みます。

注1 「役員、顧問等」には、役員、顧問のほか、相談役その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、経営や業務運営について、助言すること等により影響力を与えると認められる者を含む。

注2 総売上高又は事業収入の額は、当該契約の締結日における直近の財務諸表に掲げられた額によることとし、取引高は当該財務諸表の対象事業年度における取引の実績による。

(2) 公表する情報
上記(1)に該当する契約先について、契約ごとに、物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約先、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表する。物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約先、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表する。
当機構における最終職名及び経験者(当機構OB)の人数、職名及び当機構との間の取引高に占める当機構との間の取引高の割合が、次の区分のいずれか1以上2分の1未満、2分の1以上3分の2未満又は3分の2以上1未満又は1以上2分の1未満、2分の1以上3分の2未満又は3分の2以上1未満である場合はその旨

(3) 当機構に提供していただく情報
契約締結時点で在職している当機構OBに係る情報(人数、現在の職名及び当機構における最終職名等)
直近の事業年度における総売上高又は事業収入及び当機構との間の取引高

(4) 公表日
契約締結日の翌日から起算して原則として72日以内(4月に締結した契約については原則として93日以内)

(5) その他
当機構ホームページ(契約に関する情報)に「国立研究開発法人水産研究・教育機構が行う契約に係る情報の公表について」が掲載されているのでご確認ください。また、当機構のホームページ(契約に関する情報)に「国立研究開発法人水産研究・教育機構が行う契約に係る情報の公表について」が掲載されているので、ご了知願います。

9. 公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について

当機構では、国より示された「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(平成19年2月15日文科科学大臣決定)に沿って、公的研究費の契約等における不正防止の取り組みを行っており、取り組みのひとつとして、取引先の皆様に「国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたっての注意事項」(URL: http://www.fra.affrc.go.jp/keiyaku/pledge_request/note_contract.pdf)をご理解いただき、一定金額以上の契約に際して、当該注意事項を遵守する旨の「誓約書」の提出をお願いしています。公的研究費の不正防止関係書類(公的研究費の不正防止にかかる「誓約書」の提出について、国立研究開発法人水産研究・教育機構との契約等にあたっての注意事項、誓約書)は、入札説明書に添付しますので、契約相手方となった場合は、誓約書の提出をお願いします。

なお、当機構の本部、研究所、開発調査センター、水産大学校いずれか1箇所に1回提出していただければ、当機構内の次回以降の契約では再提出する必要はありません。

業 務 仕 様 書

1. 件 名 姫戸沖ブイ復旧に係る係留索現状調査等業務
2. 業 務 目 的 本業務は、熊本県上天草市姫戸沖に設置している大型自動観測ブイ（以下「姫戸沖ブイ」とする。）を海面上に固定させるために使用している係留索3本（うち1本破断）について、補修方法を検討するにあたり、係留索の現状確認及び可能な範囲で仮復旧を行うことを目的とする。
3. 業 務 場 所 熊本県上天草市姫戸町沖（図1参照）
設置緯度経度は北緯 32 度 24.683 分、東経 130 度 26.567 分

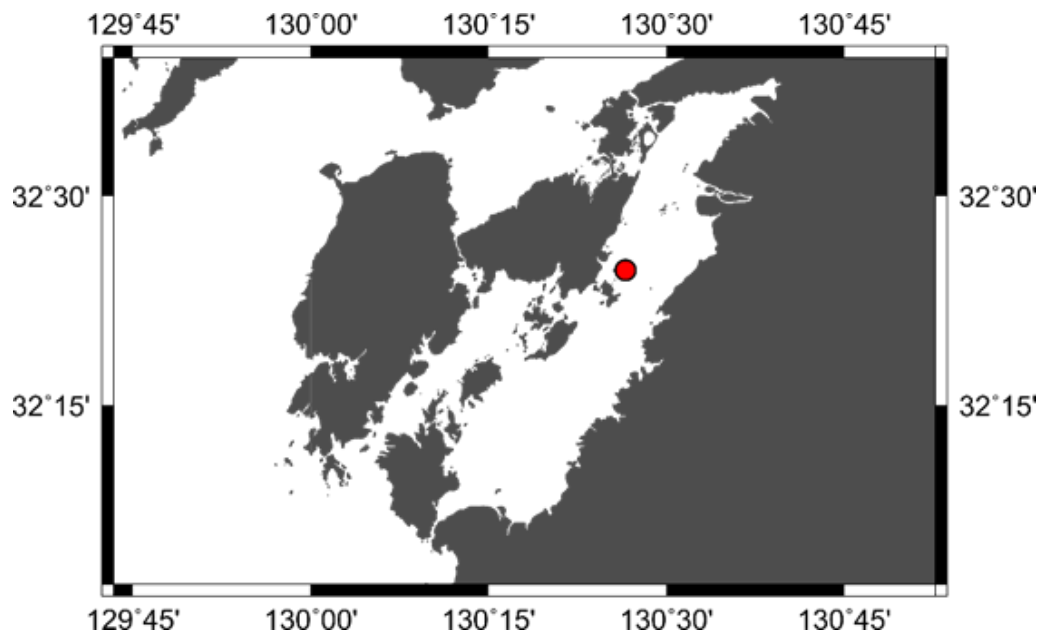


図1 八代海における姫戸沖ブイ係留定点
設置緯度経度は北緯 32 度 24.683 分、東経 130 度 26.567 分

4. 履 行 期 限 令和6年12月20日

5. 業務内容 別紙図2及び図3に示す姫戸沖ブイ係留索について、以下の業務を行うこと。
- 1) 姫戸沖ブイの係留索3本について、海底付近のシンカーまで潜水し、係留索の状況を目視にて確認すること。同時にその状況を水中カメラ等で撮影し、仮復旧に必要な情報を収集すること。なお業務に必要な作業船、警戒船、潜水土、機材、資材等は請負業者側で用意すること。また潜水については、姫戸沖ブイを係留している海域が潮汐の状況によっては水深40mを超えるため、安全性を考慮し、潜水作業を行うこと。
 - 2) 係留索の状況確認後、図3のとおりに係留索とブイ本体を堅牢なロープ等でつなぎ止める仮復旧作業を行うこと。
 - 3) 本業務は業務報告書及び完了報告書の提出をもって、完了とする。業務報告書については、以下①・②を作業終了後に実施結果としてまとめ、1部提出すること。
 - ① 破断部の係留索の状況（引き続き使用可能な状況か、破断・損傷等の状況等）
 - ② その他係留索の本復旧に当たり必要な情報等
- 提出先：〒851-2213
長崎県長崎市多以良町 1551-8
国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所

6. その他
- 1) 詳細については担当職員の指示に従うこと。
 - 2) 業務実施日については、担当職員と調整し決定すること。

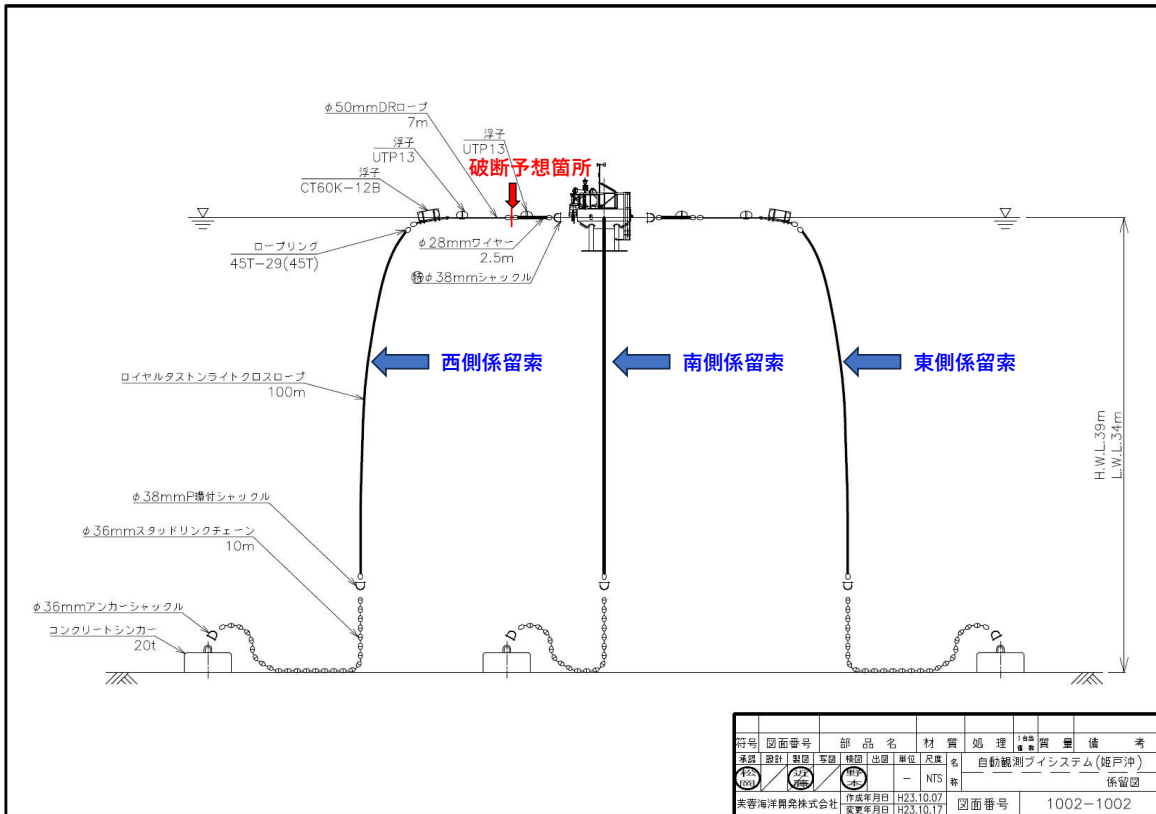


図2 姫戸沖ブイの設置状況と係留索破断予想箇所

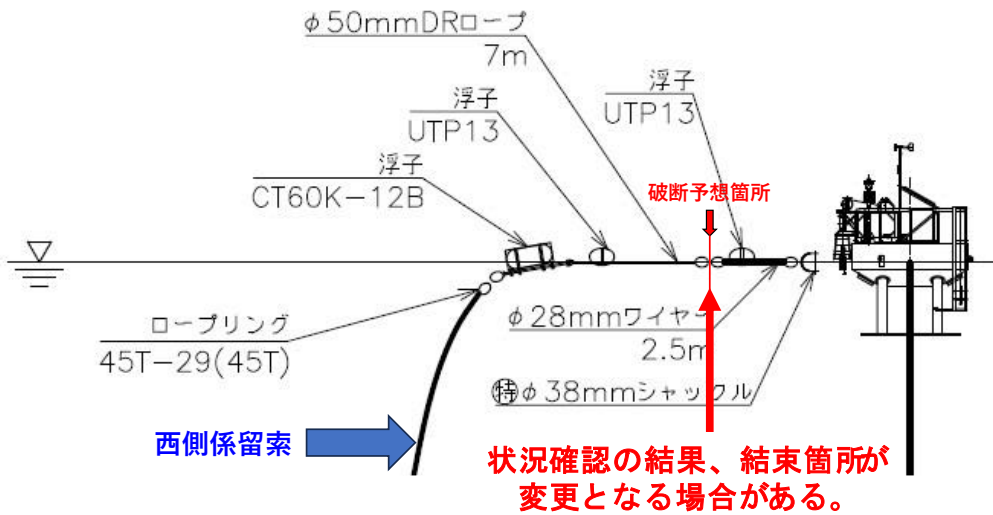


図3 姫戸沖ブイ係留索仮復旧時の結束箇所